令和７年１２月１０日

福島大学附属幼稚園　星 俊子副園長が 令和７年度教育者表彰を授与されました

文部科学省では、学校教育の振興に特に顕著な功績のあった方を称え、表彰を実施しております。
このたび福島大学附属幼稚園星俊子副園長が受賞し、令和７年 12 月３日(水)に令和７年度教育者表彰式が執り行われました。

副園長は、昭和 63 年より平成 24 年までの 24 年間、福島大学教育学部附属幼稚園教諭として勤務し、幼児教育の充実に精力的に取り組んできました。特に＜幼児の遊び＞を重視した教育方針のもと、日々の保育を対話的に行いながら実践を積み重ね、その成果を論文等で積極的に公表してきました。これらの教育・研究活動は、現在の小学校以降の探究的な学びへとつながるものであり、極めて高く評価されています。
平成 24 年には主幹教諭（教頭代理・副園長代理）となり、2 年間の勤務を経て、平成 26 年より教頭・副園長として現在まで 11 年以上にわたり、実質的に園の運営を担ってきました。副園長就任後も、理論と実践の往還を重視する姿勢を崩さず、幼稚園教育要領の改訂や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」など文部科学省の新たな取り組みに関する研究を続け、それらを保育に取り入れる方法を探究してきました。3 歳から 5 歳の発達の姿を明らかにするとともに、幼児の「やってみたい」という意欲の重要性についても公表しています。
また、副園長として保護者との信頼関係を重視し、開かれた園運営に取り組んできたことも特筆されます。家庭と園をつなぐための情報発信の工夫や、多様なツールを活用した連携の強化、遊びを中心とする保育の重要性を保護者にわかりやすく伝える具体的な方法を示した点は高く評価されています。さらに、園の HP による情報提供や新しい登降園システムの導入など、ICT を活用した効率的で透明性の高い園運営を推進してきたことも重要な成果です。

主幹教諭就任時には、震災直後のさまざまな課題に対し、保護者と丁寧に話し合いながら対応することで、安心・安全な園運営を実現し、保護者から強い信頼を得ました。その経験は、2020 年以降のコロナウイルス流行時にも生かさ

れ、園児と保護者の安心を確保しながら満足度の高い園運営を先頭に立って実施し、園が困難を乗り越える大きな支えとなりました。
また、県内各市町村での幼稚園教諭への講演活動や、園での研修受け入れにも積極的に取り組み、福島県内の幼稚園教諭の育成にも大きく貢献してきました。

これらの意欲的で継続的な取り組みにより、園の教育の質を高め、良い園風を築きながら運営に尽力してきたことが高く評価され、今回の受賞へとつながりました。

（お問い合わせ先）
福島大学附属幼稚園　園長　川田　潤
電　話：024-534-7962
メール：youchien@adb.fukushima-u.ac.jp